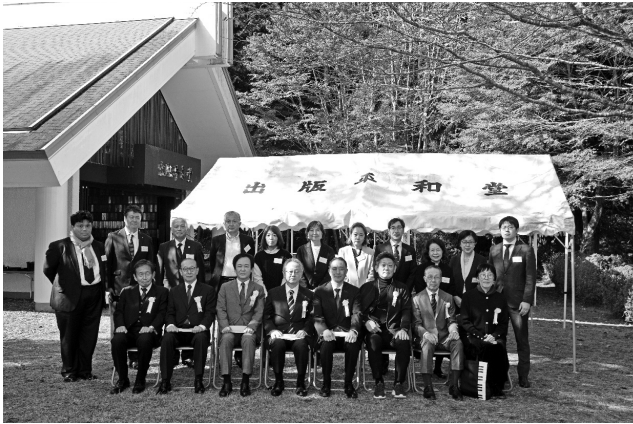


出版平和堂 第57回 出版功労者顕彰会 開催



10月27日(月)、「出版平和堂第57回出版功労者顕彰会」が箱根湖畔の出版平和堂で開催された。当日は天候に恵まれ、約70名の出版関係者が参集した。顕彰会は、欠席となった野間省伸・日本出版クラブ会長の挨拶を南條光章・出版平和堂委員長の代読で開会した。黙祷の後、宮原博昭・日本雑誌協会理事長による4名の新顕彰者名が奉告された。続いて、奥村景二・日本出版取次協会副会長による献詞、参会者による献花が行われた後、小野寺優・日本書籍出版協会理事長による感謝のことばが述べられ、顕彰会は終了した。矢幡秀治・日本書店商組合連合会会長による献杯の発声でスタートした昼食会は最後まで和やかな会となった。

本日は、出版平和堂第五十七回出版功労者顕彰会にご出席いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。第五十七回を迎えた出版功労者顕彰会に、新たに四名の出版功労者が加わります。明治以来、一二四二名の皆様のお名前が銘板に刻まれ、皆様の心に深く、永くとどめられることと存じます。本年は先の戦争の終戦から八十年となりました。出版平和堂は、一九六九年の創立以来、我が国の出版界の繁栄を築き、出版文化の発展にご尽力いただいた方々を顕彰し、その功績を讃えるとともに、出版を通して平和な社会を将来にわたって守

り続けることを誓う、出版界にとって重要な記念碑です。世界を見渡してみますと、ロシアとウクライナの戦争は三年半経っても終わりが見えず、イスラエルとパレスチナの戦いも二年が経ちました。出版平和堂の前に立ち、あらためて世界が平和になることを祈るばかりです。この夏は観測史上最も暑い夏になりました。九月、十月も暑さが続いております。皆様夏のお疲れが出ぬようお氣をつけてお過ごしください。最後に、日頃より出版平和堂へのご協力をいただいている箱根町行政の皆様はじめ、協力団体、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。出版平和堂へさらなるご理解とご協力をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

会長あいさつ

日本出版クラブ会長 野間 省伸

(のま・よしのぶ)



出版クラブ会報
No.631

主な記事

- ▽出版平和堂 第57回 出版功労者顕彰会 開催……………一、四
- (挨拶) 野間 省伸、宮原 博昭、奥村 景二、小野寺 優、
- 矢幡 秀治、南條 光章……………五
- ▽2025年度出版平和堂維持会にご協賛いただいた方々
- ▽「ひとりひとりが「生きる」みんなの世界
- ―ジェンダーと読書―展を開催……………六
- ▽「マス倫懇」全国協議会第67回全国大会報告……………新妻 真史…七
- (出版歳時記) もっとと連携を!……………八

2026年 出版関係
新年名刺交換会

1月7日(水)
正午より

出版クラブビル
3F・4F

新顕彰者名奉告

日本雑誌協会理事長

宮原 博昭
(みやはら・ひろあき)

〈版元関係〉

平野 明久 殿

星雲社代表取締役社長

〈取次関係〉

森内日出美 殿

日教販代表取締役社長

〈書店関係〉

玉山 哲 殿

Iwakyō代表取締役社長

大橋 信夫 殿

東京堂代表取締役社長

(以上四名)

献詞

日本出版取次協会副会長

奥村 景二
(おくむら・けいじ)

「出版平和堂 第五十七回出版功労者顕彰会」の開催にあたり、我が国の出版文化の礎を築き、その発展と繁栄にご尽力された諸先輩の御霊に、謹んで献詞を捧げます。

出版平和堂は昭和四十四年、出版関連団体の総意によりこの地に建立されました。以来、毎年秋には多くの関係者が集い、先達のご功績を称えるとともに、そのご尊名を前に、業界の

永続的発展を誓い合っておりました。

本日ここに新たに四名の方々をお迎えし、第一回より合わせて一二四名の方々の顕彰することとなりました。参会者一同、改めて深甚なる敬意と感謝の意を捧げます。

今年は、戦後八十年という歴史的な節目の年にあたります。日本が復興を目指して歩みを進めた時代に、先達方は「出版物

が人々の希望の灯となる」との信念のもと、傷ついた心に寄り添い、尽力されました。

世界に目を転じれば、今なお戦争によって命が失われている現実があります。私たちは、先達方の高邁なる志と不断の努力を受け継ぎ、日本において薄れつつある戦争の記憶を次代に繋ぎ、世界平和を希求し続けなければなりません。

また、現代において我々は、



急速な技術革新と価値観の多様化の中にあり、出版を取り巻く環境は大きく変化し、厳しさを増しております。しかしながら、出版の本質は不変であり、人と人との結び、知と感動を伝える営みは、今後も社会にとって不可欠なものでございます。我々後進は、先人の御志を胸に刻み、未来に向けて出版文化のさらなる発展に尽力してまいります。ここに出版界の礎を築いてこられた諸先輩方に献詞を捧げ、未来への誓いいたします。

文霊（ふみたま）にうつし世の平和いのりつつ道にはげみし人をたたえむ



出版平和堂

この地を訪れ、出版界の歴史や
思いに触れてみませんか



問い合わせ：一般財団法人日本出版クラブ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル 5F

TEL 03(5577)1771

<https://www.shuppan-heiwado.jp/>



感謝のことば

日本書籍出版協会理事長

小野 寺 優

（おの でら・まさる）

本日、新たに四名の方が出版平和堂にその名を刻まれ、合わせて一二四二名のご芳名が長く後世に伝えられることになりました。出版文化と出版界の発展のために、誠心誠意ご尽力されたいみなさま方に、心より敬意と感謝を申し上げます。

千数百年の長きに渡り、人類は出版物とともに歩んできました。それは常に人々の情報の源であり、思索や創造の基盤でし

た。しかし近年のデジタルテクノロジーの進歩は、そのあり方を大きく変えようとしています。今、人々は一台のパソコンやスマートフォンを通じて溢れんばかりの情報を得ています。加えて生成AIの急激な進歩は、自ら考え、新たなものを創造する、という概念すら変えようとしています。そのような変化の中で、出版物の役割とは何か、私たちは問われているのか

もしれません。出版功労者顕彰会は出版界の先達の功績を讃え、感謝するとともに、業界の繁栄を誓い、世界の平和を祈願することを目的として開催されています。しかし世界に目を転じれば、ロシアとウクライナの戦争はすでに三年半を越え、ガザ地区での紛争もまだ予断を許しません。これまで人類が幾度となく経験し、その都度、もう二度と起こさな

い

と誓ってきた悲劇が今も各地で繰り返されています。ここ出版平和堂に顕彰されている方々をはじめ、出版界の先達は社会が大きく変わる時代にあっても、平和に暗い影が差す時代にあっても、出版物の力を信じ、幾多の困難に立ち向かい、出版文化を守ってこられました。今こそ私たち出版人は先達に思いを馳せ、出版物の重要性をあらためて見直し、築かれた礎をさらに強固なものとして未来に継承していかなければなりません。

本日、この箱根の地において、ご家族・ご関係者ご列席の中、新たに四名の方々に顕彰するにあたり、あらためてその決意を表し、「感謝のことば」を捧げます。

それでは、ご家族、関係者ならびに本日ご参集の皆さまのご健勝を祈念いたしまして献杯いたします。

献杯。



日本書店商業組合連合会会長

矢幡 秀治

（やはた・ひではる）

日本書店商業組合連合会の矢幡でございます。

本日は、第五十七回出版功労者顕彰会に、ご家族そして関係者の皆さま、ご臨席を賜りまして真にありがとうございます。

新たに四名の功労者のお名前を出版平和堂に刻みました。出版文化ならびに出版業界の発展に尽力された方々に深く敬意を表し、心より感謝を申し上げます。

出版業界は今、大きな構造改革の時機を迎えております。私どもは先達が賢明に刻まれた礎を守りつつ、輝かしい未来へと躍進していくことをお誓い申し上げます。





閉会のことば

出版平和堂委員長
南條 光章

（なんじょう・みつあき）

閉会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

私は、出版平和堂委員長を仰せつかつております南條光章です。

本日は「出版平和堂 第五十七回 出版功労者顕彰会」に多くの方々にお越しいただきまして、顕彰会が盛会に挙行できしましたこと、厚く御礼申し上げます。

出版平和堂委員会は、副委員長に風間敬子さん、吉野和浩さん、司会進行をお務めいただいた

ております千倉成示さんとともに各業界団体の委員の皆さんにも加わっていただき委員会活動を行っております。

十月に入り朝晩はめっきり涼しくなっており、秋の訪れが一気にきてしまった感じがいたします。そのような季節の中、十月末での開催となり、寒気をやや心配いたしましたがおかげさまで本日は穏やかな天気のもと、また、自動車、バス利用におきましては高速道路の集中工事の影響が心配されました

が、大きな影響もなく予定通りに開催できまして、安堵いたしました。

本日は、四名の方々が顕彰されました。それぞれ各業界を代表され、ご尽力された方々ばかりです。改めまして、顕彰された方々の出版業界へのご功績に感謝申し上げます。

さて、ここ数年、平和堂周辺の維持、管理には以前にも増して、整備が必要になってきています。気候変動に伴う影響等からか、動物による被害や植物の伐採等、整備に手間と時間がかかるようになっていきます。ただ、今年はそうした被害や整備に関する影響がほとんどなかったと聞いておりまして、一安心したところで、整備等に関しましては、日頃から維持、管理をしていただいております管理人の大澤さんのご協力に感謝申し上げます、とは申ししましても、

今後も現状を維持していくためには、資金の確保が必要になってまいります。資金に関する協力・運営団体としまして、出版平和堂維持会がございます。本日、お越しいただきました皆さまにおかれましては、出版平和堂を今後も維持・管理していくため、出版平和堂維持会へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。何とぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

多くの皆さまのご来会に感謝申し上げますとともに、お氣をつけてお帰り頂きますようお願い申し上げます。閉会のことばといたします。

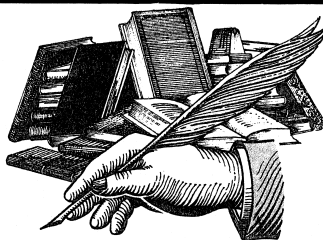
本日は誠にありがとうございました。



出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申し上げます。



受賞祝賀会

受賞の栄誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい

●ご予約・お問合わせ

出版クラブホール

Tel 03(5577)1511 千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル

2025年度出版平和堂維持会にご協賛いただいた方々
(2025年11月15日現在) (敬称略・五十音順)

- 〔法人〕
愛知県教科用図書卸商業協同組合
あかね書房
秋田書店
朝倉書店
家の光協会
医学書院
石川県教科書販売所
医歯薬出版
今西書店
岩崎書店
岩波書店
内田老鶴圃
芸艸堂
大阪教科書
オーム社
沖縄教販
落合書店
音楽之友社
偕成社
海文堂出版
学事出版
風間書房
鹿島出版会
学研ホールディングス
学校図書
神奈川県教科書販売
教育芸術社
教育出版
共同印刷
共立出版
杏林書院
金星堂
金の星社
研究社
- 建帛社
恒星社厚生閣
佼成出版社
講談社
弘文社
光文社
弘文堂
小峰書店
三省堂
三省堂書店
実教出版
信濃屋書店
清水書院
集英社
主婦と生活社
春陽堂書店
小学館
裳華房
彰国社
祥伝社
少年画報社
新興出版社啓林館
新生紙パルプ商事
新潮社
新文化通信社
星雲社
青春出版社
成美堂
誠文堂新光社
世界思想社教学社
世界文化ホールディングス
創元社
増進堂・受験研究社
第一学習社
大修館書店

- 大日本図書
高橋書店
辰巳出版
淡交社
筑摩書房
千倉書房
地方・小出版流通センター
中央経済社ホールディングス
築地書館
帝国書院
電気書院
東京書籍
東京大学出版会
東京堂
東京都東部教科書供給
童心社
同文館出版
トーハン
読書人
図書館流通センター
戸田書店
栃木県教科書供給所
TOPPANクロレ
中山書店
南江堂
二玄社
日外アソシエーツ
仁木書店
日本醫事新報社
日本ヴォーグ社
日本加除出版
日本実業出版社
日本出版販売
日本スボーツ企画出版社
日本図書普及
日本文教出版
白水社
白桃書房
博文館新社
長谷川書店
ひかりのくに

- 平井書店
福岡県教科図書
富士経済グループ本社
文英堂
文藝春秋
文理
平凡社
ベースボール・マガジン社
豊川堂
北隆館
ポプラ社
マガジンハウス
三重県教科書特約供給所
光村図書出版
ミネルヴァ書房
宮城県書店商業組合
明治書院
明治図書出版
八重洲出版
山川出版社
有斐閣
有隣堂
養賢堂
吉川弘文館
リイド社
- 〔個人〕
阿部敬子
安部 悟
石川久美子
岩波 力
上野彰久
上野佐和子
越前信子
及川 清
大高静子
大竹公子
大坪嘉春
岡田婦美子
奥川 隆
- (以上135社)

- 岡原秀登
小澤陽子
小田嶋 仁
小保方恒雄
川端重夫
北川恵子
國枝英明
國元みどり
小鷹勝子
小宮山うき枝
近藤博子
坂本嘉廣
志村宇城
白井朋子
白浜基久子
角屋隆之
高木祐治
高岸常治
津曲奈穂子
寺澤妙子
中平千晴
南條正晴
南條光章
西山 妙
日橋明子
長谷川静子
畑 史郎
廣川知志
廣瀬 真
古岡文子
堀江弥生
前田君子
前田隆夫
増田恒子
松木 茂
松坂能江
村山久子
山岸なを子
横山 隆
- (以上52名)

■小さな本の展覧会②⑤

「ひとりひとりが「生きる」みんなの世界 —ジェンダーと読書—」展を開催

さる11月4日、29日まで、出版クラブビル3階のライブラリーにて「ジェンダーと読書」をテーマに小さな本の展覧会②⑤が開催されました。

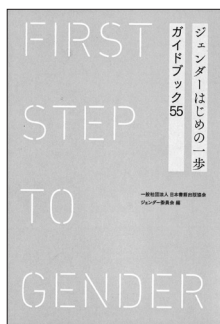
「ジェンダーと読書」を主題にした展示は、じつは3回目。2023年「男らしさ」へ「女らしさ」から自由になるための言葉、ジェンダーを知るはじめての「一歩」、2024年「私たちの『思い込み』に気付く本棚、ジェンダーと読書」と回を重ねています。

今年は、全国の目利きの書店員さん20名の方による選書60冊を中心に、ブックディレクター・幅允孝さんやライブラリー委員

による選書を合わせ、およそ100冊を展示しました。タイミングよく、一般社団法人日本書籍出版協会 ジェンダー委員会が制作した小冊子「ジェンダーはじめの一歩 ガイドブック55（非売品）」が9月に出来上がっていましたので、下中美女ライブラリー委員長のご差配により、会場に展示できました。

初日夕刻からは、幅さんと書店員さん、著者さん、編集者さんの交流회가、成瀬雅人ライブラリー委員のご挨拶で開催され、今後の展開に資するなごやかで有意義な場となりました。実現のためにご尽力くださいました。

下記のQRコードからはブックガイドの内容、「ジェンダーを知る本リスト」が閲覧できる



した皆様に感謝申し上げます。さらに新しい試みとして、2つの関連イベントも企画・実施いたしました。11月9日午後には「わたしを生きる旅」分かち

合う読書体験とアート制作」と題したワークショップを、翌10日夜には「スマホを置いて」ただ本を読む「至福の時間」という読書会を実施、いずれも女性を中心に多くの参加者が集まり、本と言葉を通して、ジェンダーに関する気づきを分かちあうことができた、と大変好評でした。読書会につきましては、神保町にある出版クラブらしい活動として、今後も回を重ね、ゆっくりじっくり育てていきたいと考えております。

ライブラリーと日本出版クラブの活動について知っていただくために、千代田区男女共同参画センターとの相互交流により、サイトやSNSでの情報拡散や、神保町マップに注目ポイントとしてライブラリーを掲載していただきました。他にも上智大学、日本大学、法政大学のダイバーシティ推進センターなどにチラシを置いていただく、小学館、講談社の媒体への掲載など、PRにつとめました。

クラブのサイト上には特設ページを作成。展示した全書目をダウンロードしたり、プリントしたりすることができ、各書籍の書影リンクからは、一般社団法人 日本出版インフラセンターの「出版書誌データベース」の当該ページに飛ぶことで購買導線にもつながることができました。



イベント参加者が制作した「分かりあえないけど分かち合える世界」を表現した作品をロビー受付下に展示した



上記QRコードより特設サイトへ。テーマ別の展示書目などがご覧いただけます。

た。ぜひいちどご覧ください。クラブでは、ライブラリーを本を手にとって読めて、訪れる方々がくつろげる場所にする計画を少しずつ進めております。ご意見、ご感想、アイディアなどがございましたら、ぜひ事務局までお伝えくださいますようお願いいたします。



参加書店員リスト（敬称略 五十音順）

東京大学生協 駒場書籍部	足立裕太
くまざわ書店 八王子店	磯前大地
ジュンク堂書店 池袋本店	井手ゆみこ
青山ブックセンター本店	神園智也
twilight	熊谷充紘
大垣書店 高野店	倉津拓也
三省堂書店 神保町本店	瀧澤望
マルジナリア書店 by よはく舎	小林えみ
東京大学生協 本郷書籍部	佐藤直子
元・清風堂書店	谷垣大河
有隣堂 店売事業部（イベントチーム）	名智理
恵文社一乗寺店	原口輪佳
紀伊國屋書店 新宿本店	東二町順也
ときわ書房 志津ステーションビル店	日野剛広
ブックファースト 新宿店	広野陽子
MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店	福嶋聡
啓文社ポートプラザ店	藤川学
東京堂書店 神田神保町店	三浦亮太
代官山 蔦屋書店	宮台由美子
京都大学生協 ブックセンタールネ	山下貴史

マスコミ倫理想談会全国協議会（以下、マス倫懇）の第67回全国大会が10月9日、10日の2日間、「戦後80年の分岐点―メディアは民主主義を支えきれるか」をテーマに、福井市内のフエニックスプラザで開催され、メディア関係者約280人、出版からはオンラインも含めて約40人、出版クラブ震災対策室のメンバーも参加した。

マス倫懇は「マスコミ倫理の向上」と言論・表現の自由の確保」を目的として1955年に設立。出版、新聞、放送、通信、広告、プラットフォーマーなど約190の企業、団体を会員に、各地区で月例会や事例研究などを通して情報交換を行っているほか、毎年秋に全国大会を開催している。

福井での開催は2007年の第51回大会以来、18年ぶり。昨年3月に北陸新幹線が敦賀まで延伸し、東京から3時間弱、福井駅前では実物大の動くテトラノサウルスなどの恐竜像が出迎えてくれた。

大会初日の午前には基調講演が行われ、「SNS時代の取材・報道とは―戦後80年、揺らぐメディアの信頼」と題し、斉藤一也氏（テレビ東京報道局総合ニュースセンターエグゼクティブプロデューサー）を司会に、西田亮介氏（日本大学危機管理学部教授）、山口真一氏（国際大

学グローバル・コミュニケーション・センター准教授）、米重克洋氏（JX通信社代表取締役）がディスカッションを行った。

米重氏は先の参院選に関する詳細な分析を元に、特に若年層・現役世代で従来の支持構造に変化が見られる点などを報

“マス倫懇”全国協議会 第67回全国大会報告

新妻 真史（日本雑誌協会）

告。それを受けて山口氏は2024年を「SNS選挙の転換期」と捉え、SNSや動画が若者だけでなく幅広い層に浸透し、熱心な支持者の投稿が強い拡散力を持つ一方、マスコミはネット戦略が脆弱で存在感がなく、ネットでの情報がそのまま「事実」

と受け止められる危うさや、ファクトチェック報道が逆にフェイクニュースの拡散を招く可能性を述べた。

さらに西田氏も、2020年代前半は「マスコミがマスでなくなった転換点」と位置づけ、ネットが伸長した表裏として、自己分析、改善が行われなかった結果、テレビ、新聞離れが進んだと指摘。信頼されなくなったメディアのファクトチェックの意味にも言及した。

その後、マス倫懇の新規プロジェクトとして「記者活動に対する誹謗・中傷への制度的・法的対応および支援策の検討」について澤康臣氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）が報告。ネット上での記者への攻撃により、ある種の報道を避けるような厭戦ムードが生まれつつある現状を踏まえ、法的支援の必要性を訴えた。

- 午後はA～Eの5つの分科会に分かれて討議が進められた。各分科会のテーマは以下の通り。
- A…真に必要な災害報道とは
 - B…SNS時代の選挙報道の課題
 - C…言論空間におけるステイグマを考える
 - D…記者活動に対する誹謗・中傷への対応
 - E…メディアはAIを使いこなせるのか



出版クラブビル全テナントによる 消防避難訓練が行われる

2025年11月6日（木）午前10時30分より、大規模地震による火災が発生したことを想定し、神田消防署三崎出張所の指導のもと、出版クラブビル全テナント参加による消防避難訓練が行われた。

来館者の避難誘導を優先したのち、参加者全員、2カ所の避難経路から1階駐車場に集合し、点呼で無事を確認したのち、消火器操作の実地訓練を行った。3FホールではAED（自動体外式除動器）操作説明と実際の操作を体験し、改めて防災意識を高める1日となった。

このうち、齋藤英彰氏（双葉社・編集総務部副部長）が座長として登壇した分科会Cでは、池尾伸一氏（東京新聞・編集委員）、吉谷篤樹氏（埼玉新聞・社会部記者）がクルド人ヘイト問題を現場の立場から報告したほか、ノンフィクション作家の廣末登氏が「闇バイト問題」に見るマスコミに欠けている視点、ジャーナリストで元「実話時代BULL」編集長の鈴木智彦氏が「ヤクザへの人権制限の本質とは」について講演した。

齋藤座長は2日目の全体会報告でも地元福井新聞が報じた「全国の新聞社や放送局などが集まり意見交換する」大会という記事に触れ、「出版が『など』に含まれてしまっているが、分科会Cは、この『など』に括られてしまう人たちに寄り添って話をすべきではないか、ということからスタートしている」と述べ存在感を示した。

決議された大会申し合わせは「私たちは（中略）民主主義社会の基盤を支える存在であり続ける」と結ばれるが、今後も出版ならではの問題意識を提起し続けることの重要性を再認識した大会となった。

来年は11月に広島市で開催される。

出版 歳時記

▽秋の読書関連イベントも一段落だが、今年はまず、横浜みなとみ

らいで10月22日から24日まで開催された図書館総合展に参

加した。
▽図書館総合展は図書館をテーマとする国内最大級のイベントで、図書館関連企業・団体、出版社、学校などが出展して、各種講演やワークショップも行われ、大変参考になる。

もつと連携を！

しかし今年は展示ブースがだいぶ少なくなった印象を受けた。出版社はごく少数、大学関係も学生のサークルは多数見られるものの、学校挙げての参加はほとんどなし。関連企業・団体は見慣れたところばかりで新鮮味はなかった。

▽昨今減り続ける出版物販売額や街の書店をどうにかしなければと、いくつかの議員連盟ができ、経産省や文科省、文化庁等々が具体的対策を提案してきているが、その中心は「出版関連業界・団体はも

っと連携して読書推進を図ろう」である。
▽にもかかわらず、各団体は相変わらず別々に展示会を開催している感がある。図書館総合展もそうだが、出版社は度々展示会を開いているし、書店組合主導の「ブックフェア、あえて言うならコミケや文芸フリマ等々」ももっと連携してもいいのではと思う。開催規模は大きくなるし、

つと連携して読書推進を図ろう」である。
▽にもかかわらず、各団体は相変わらず別々に展示会を開催している感がある。図書館総合展もそうだが、出版社は度々展示会を開いているし、書店組合主導の「ブックフェア、あえて言うならコミケや文芸フリマ等々」ももっと連携してもいいのではと思う。開催規模は大きくなるし、

▽そのきつかけは、県立図書館が2012年甲府駅北口に新規開館した時、初代館長に図書館経験のある作家阿刀田高さんが着任した時にさかのぼる。彼は「図書館だけが栄えるのではなく、地元書店と連携して読書推進を図る」として書店に協力を求め、自らの人脈を利用して著名作家に講演を依頼し（経費は図書館負担）、講演後は著書を販売してサイン会を行い（売上は書店へ）、サイン会終了後は場所を移動して作家と地元ワ

インを飲む会を開催する（有料・運営と会計は書店が担当）仕組みを作り上げ、今日に至っている。
▽今年も見事な展開であったが、次のステップへの課題も見えてきた。「今来ていない人をどう呼ぶか」である。出版以外の業界（地元商店会や飲食店等々）との連携も必要になってくるであろう。他の都道府県ものんびりしている時間はないはずだ。動く（ハリマオ）

出店コストも下がり、より幅広い交流が可能になるはずだ。
▽11月の2日・3日は、甲府駅南口を中心に行われた、さまざまな読書活動促進事業（通称「やま読」）『YAMADOKU BOOK FEST 2025』へ。この活動は、山梨県立図書館を中心に、地元書店、学校、取次、出版社、県外応援者が力を合わせて行っているもの。私を知る限り「日本一の業界連携活動」である。

出版クラブ維持員動静
▽代表者変更
文化出版局 秋元雅則→榎下町伸一
富士経済グループ本社 田中一志→秋田雅之
教育評論社 阿部黄瀬→秋田雅之

出版クラブ維持員動静

▽代表者変更

文化出版局 秋元雅則→榎下町伸一

富士経済グループ本社 田中一志→秋田雅之

教育評論社 阿部黄瀬→秋田雅之

帝国書院 佐藤清→守屋智央

教育出版 伊東千尋→別府直之

出版企業年金基金 浅野純次→中部嘉人

一迅社 野内雅宏→嘉悦正明
双葉社 戸塚源久→梓沢雅治
第一学習社 松本洋介→松本駿介

▽住所変更

福音館書店 〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1 中野坂上サンブライトツイン2階

主婦と生活社 〒111-8545 東京都台東区柳橋1-23-6

▽退会 早稲田大学出版部・光文書院

第55回野間読書推進賞 贈呈式が開催される

2025年11月7日（金）午前11時より、千代田区神田神保町の出版クラブホールにて、第55回野間読書推進賞贈呈式が開催された。同賞は地域や職域において、読書の普及に多年尽力し、読書推進運動に貢献された団体または個人を顕彰するものである。今回は、団体の部として公益財団法人ふきのとう文庫（北海道）、個人の部として岩田美津子さん（大阪府）が受賞された。

贈呈式は、公益社団法人読書推進運動協議会・野間省伸会長の挨拶のあと、選考委員である



黒木義博氏（公益社団法人全国学校図書館協議会読書活動振興プロジェクト担当）による選考経過報告が行われた。続いて賞の贈呈では、野間会長より受賞者に、賞状と賞牌および副賞が手渡された。

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課図書館・学校図書館振興室・稲田幸昌専門官より祝辞が述べられたのち、団体の部受賞のふきのとう文庫代表理事・高倉嗣昌さん、そして個人の部受賞の岩田美津子さんより喜びのご挨拶があった。贈呈式終了後には祝賀会も催され、受賞者・関係者が和やかな時間を過ごし、親交を深めた。

